

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム・あかり	評価実施年月日	平成20年2月10日
評価実施構成員氏名	中川恵美子 宮崎抄智子 佐藤富美子 片石由美子 柳田朋子 池田二美江 木村るみ子 廣瀬のり子		
記録者氏名	中川恵美子	記録年月日	平成20年2月15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>事業所の基本理念にもとづき、その人らしい人生を最大限尊重されるよう具体化された介護を基本理念とする。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念にもとづいて個別的ケアを行っている。毎朝のミーティングにより具体的なケアを実践している。又、全職員が共有して介護に当たっている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>オープンセレモニー実施により、家族・運営委員・関係機関等に対し理念の浸透を図る。必要により場の提供を図り、年齢問わず共に生活をしている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>地域の方が散歩の途中や仕事帰りに気軽に立ち寄り自然な付き合いが出来ている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域が一丸となって行われている行事への参加や保育園児との交流等実施している。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の介護職員 福祉関係職員研修会開催。老人クラブとのなじみの関係が出来、温泉の利用等を通して交流。あらゆる機会をとらえて認知症研修会を実施。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全員で取り組み、その内容によっては全体会議等により具体的に項目の検討を行っている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月毎に開催(会議)され、その中で利用者が安心して安全な生活が送れるよう、又地域の高齢者とグループホームでの高齢者が、何の偏見もなく生活がなされている。評価結果については具体的に会議中で報告し、意見を取り上げてよりよい生活につなげている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村との連絡は常に相互に行き来しており、スタッフとのなじみの関係が出来ている。さらに偏りのないサービスの質と向上にむけ、最新の状態把握に努めている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	個々の権利や援助の必要性についてはある程度知っているが、活用の仕方等は職員の勉強不足となっている。	○	社会福祉の援助として今後全職員に対しての勉強会を実施するよう検討中。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	研修会参加。その報告を身近なものとして日常生活に注意している。	○	支援マニュアルの勉強を継続して実施する。(事例をとおしながら)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には十分な時間をかけ、家族の思い、利用料金の内容等を説明。他に医療受診について体調異変・急変時対応等・退居については、その後の方向性まで話し合うことと説明している。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月／1回程度、今困っていること、何かして欲しいこと、又家族への思いなど引き出し、なるべく早くかなえられるよう努力している。年1回相談員来訪されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>・面会時を利用して、催事・日常生活・医療状況などについて話し合っている。それに基づき介護計画、金銭出納帳の確認等対応され、サインを頂く。</p> <p>・おたよりの発行</p>	○	おたよりの発行を年4回にするよう取り組む。
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>・家族会や催事時に利用者を囲み顔なじみの方々と自由な時間が設定される。</p> <p>・運営推進会議では、本音での意見を出し合い、その内容は全職員に反省と実行もある。</p> <p>・面会時、一定時間後に家族と職員の会話時間を持つ。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>全体会議他、必要に応じて職員の意見や希望を聞き出す努力をしている。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者の状態変化、早朝・就寝・入浴・催事などには職員との調整は出来ている。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>基本的には顔なじみの職員が対応しているが、異動時は利用者・家族も含めて(本人の状態像・その介護・家族関係)十分な引き継ぎがされている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	所外研修には積極的に参加。その報告もされ実践している。勤務しながらの資格取得に励むよう段階的に行われている。そのことが全職員の資質向上へとつながる。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	包括支援センターを中心に介護職員の研修が行われ研鑽と交流が図られている。	○	近隣のグループホームとの相互研修と交流を図りたく呼びかけを試みた経緯がある。しかし、現在のところ実施には至っていない。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	ストレスの要因はそれぞれ違いもあり把握は難しい。管理者として、職員間のコミュニケーションが十分図られるよう相談があれば応じ、一緒に考えたり時には笑いも交えた会話の輪を作るようにしている。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	・運営者、管理者は日常勤務を共にし、考え、ケアの向上につとめている。 ・勤務しながら資格取得に向けあらゆる支援を行いケアの質向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談から入居に至る不安解消のため、生活歴等を伺い、ある程度の不安は除かれるよう努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用希望の気持ちを大事にし、相談者のみでなく、とりまぐご家族のご意見も受け入れながら初期段階より信頼関係を築くよう努めている。		
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期の相談よりその内容によっては必要なサービスへとつなげている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心し、納得した上でサービスを 利用するために、サービスをいきなり開始 するのではなく、職員や他の利用者、場の 雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談 しながら工夫している。</p>	<p>ご家族や本人の不安を軽減するため、入居に至るまでの間、利用者の生活状況を見学していただく。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場に おかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共 にし、本人から学んだり、支えあう関係を築 いている。</p>	<p>日々利用者から学び得ることは沢山あります。その思い、もっている多くの力を引き出し、若い時につちかったものを発表したり実践する場をつくるよう努めている。</p>		
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場に おかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を 支えていく関係を築いている。</p>	<p>利用者をご家族が主体者として考え、日々の生活を共有し、ご協力を頂いている。</p>		
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に 努め、よりよい関係が築いていけるように 支援している。</p>	<p>面会時及び通信・電話等での関係づくりをしている。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの 人や場所との関係が途切れないよう、支援 に努めている。</p>	<p>・個々別ではあるが、電話・手紙は自由としている。 ・理美容も自由であるが、近くの理美容院を利用する傾向にある。</p>		
<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>31 利用者同士の関係を把握し、一人ひとり が孤立せずに利用者同士が関わり合い、 支え合えるように努めている。</p>	<p>孤立者のないよう個々の特技趣味を引き出しながら、関係づくりに努めている。その状況は常に全スタッフが共有し関わりを持っている。</p>		
<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>32 サービス利用(契約)が終了しても、継続 的な関わりを必要とする利用者や家族に は、関係を断ち切らないつきあいを大切に している。</p>	<p>契約終了後も常に気になるところであり、その時の状況に合わせて訪問したり、電話で連絡を取ったりしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で茶会とお話という場面づくりが出来ており、その中で家庭・家族等、経過を話題としながら思いを引き出し、内容を家族に提供し共に共有されている。全スタッフにも相談記録・ミーティングにて引き継がれている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・入居前よりご本人の生活とその背景を知った上でのケアに努めている。 ・又、友人や知人との関係づくりに努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々の心身状況を把握した上で、日々の生活の中で無理のない様な台所仕事や掃除・飾りつけ等の仕事を共に行うように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	全体像の観察・ミーティング・事例検討を実施している。異変時、ご家族との連携がとれ、その内容によっては再度見直し、異常状態を十分話し合い意見を出し合い、介護計画を行う。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	異変があればその都度家族と連絡を密にし、事例検討を行い、ケアの方向性を共有している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のケース記録により生活状況が分かるようにしている。早急なケア変更時はミーティング、申し送りなどで連携がとれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の状況に応じて、必要なときには訓練室において利用者を含め遊びを通して家族の絆が図られることがある。また、利用者と家族のみにて温泉を十分満喫できるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営委員会などあらゆる社会資源の活用と支援が出来ている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者の希望他により、近くの温泉(足湯)や図書館や移動図書館の活用・行きつけの理美容のサービスを受けている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	包括支援センターとは常に連携がとれている。利用者とそのご家族の、共に生活状況を知った上での情報交換をし、協力関係を保っている。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	契約時医療関係については十分理解を得られている。受診時(定期受診、他)家族同伴であるが、都合により職員が対応している。他科、他病院については介護連絡票を使用する。家族同伴の場合も口頭又は介護連絡票により密に連携している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医とは常に連携はとれている。	○	但し、他科受診には相談困難なことが多く、今後の問題としている。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医師主導の中で看護職との気軽な相談は難しい。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は疾病の経過とそのケアについてグループホームより情報を提供する。入院期間中は家族・看護職・主治医との連携を密にし、入居中の生活延長と考え、見舞いながら生活面の世話をし、早期退院を望んでいる。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	常に家族そして主治医と連絡がとれていて、職員もその対応・ケア方法を共有している。家族には状態の変化がある度に連携し対処している。特に遠隔地の家族には配慮を要している。	○	終末期について、その対応など初歩的な研修を実施したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	刻一刻と変化を増す状態時は、常に家族と主治医との連絡は欠かせず、場合によっては夜中でも救急外来を利用する等注意を払う。	○	同上
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	日常生活、医療状況を含めた介護連絡票、介護計画書等による情報提供を行いながら、今までの生活が継続されるようなじみの職員の訪問も行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	・言葉かけや対応方法は毎日の問題として、ミーティングで話し合われて関わりを持っている。 ・記録、内容は秘密保持		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	・季節や月、又は日によって個々の中からの引き出しを図り、その思いをかなえられるようまた、近づけるように努めている。 ・趣味の内容も数種類の中から選ぶよう働きかけ、楽しく過ごす。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	毎朝の挨拶やお茶会等により、利用者全員の心身的状態が把握できる。その上で個性をもった対応が出来る。。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	・朝夕の更衣、入浴後の着替えは本人の好む衣服を職員の見守りや支援のもとで行っている。 ・入浴後の整髪は気持ちよく、鏡に向かっての笑顔もみられる。 ・理美容は好む店に送迎をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の心身の状況を把握した上で、希望者があれば職員と共に野菜の下ごしらえや芋団子づくり等行う。食後の片づけについては下膳を行って頂く。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好品については個々に把握しており、時には職員と共に買い求めたりおやつ時作ったりしている。お酒・タバコの希望者はいない。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居時・体調不良時・また退院後は排泄チェック表により把握する。他、利用者の動きや表情で速やかにトイレ誘導を行う。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望を取り入れ、週2～3日の入浴を実施している。また、温泉も月2～3回程度利用(夏期は週一回程度)入浴前は必ずバイタルサイン測定により可否もある。入浴時間は午前中とし、場合により午後もある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	安眠につなげるために身体的活動は主に午前中とし、午後からは読み聞かせなどでゆったりと過ごし、就寝が穏やかであるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	・個々の特技を活かすことにより、利用者全員にも新たな喜びとして受け入れられている。また、音楽や歌など独唱したり、なつかしんで唄う姿は生き生きとした表情見られる。 ・行事や催事の飾り付けも利用者同士声を掛け合い行われている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・入居時に家族と話し合いが出来ていて、それぞれに所持金に違いはあるものの、家計を担っていた時の延長を保つよう努力している。 ・事業所でお預かりのお小遣い保管について、買い物は高額でなければ本人より支払う		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望に添うよう支援している。好天候時は日常的に散歩や歩行訓練等。天候が優れない時は、ドライブによる近くの風景、四季の移り変わりを楽しむ。また、足湯や買い物にも出かけ、外の空気を十分感じ取っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家に行ってみたいという場合は家族と相談し、その機会が作られていて、さらに思い出の場所への案内もある。他に、お花見や紅葉見物等、家族の参加も得られている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙などは自由としている。電話は家族の在宅している時間としている。(携帯電話の場合も同様としている。)		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時間は自由で、仕事帰りや畑仕事途中や帰り等いつでも立ち寄れる雰囲気づくりをしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎日のミーティングにより身体・言葉の拘束がないよう取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけない自由な暮らしを旨とし、できるだけ見守りながらの外出を主としている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	・相談記録他、事務作業は利用者の居る近くで行う。また、個別に異常と思われる状態時は自室もありうる。 ・夜間巡回時間の他、動き・物音の察知時は素早く安全に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・物品の保管は十分注意し、特に夜間は所定の場所にセットするようにしている。台所用用品の包丁や洗剤には特に注意を払う。 ・個々の内服薬は事務室内で保管している。(夜間巡回時等は鍵をセットする) 		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・予測される危険を個々に把握できていて、その防止について全職員が共有している。 ・ヒヤリハット記録により申し継がれている。 		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回全職員が救急救命法の学習、訓練を行っている。 ・夜間の異変時対応マニュアル、連絡体制も出来ている。 		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルが作成され、年2回避難訓練を行う。 ・他に、避難経路の確認・消化器設置場所の確認を全職員が行っている。 		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	<p>入居時に家族より十分な説明がなされていなかった場合、自由な暮らしとして非常な危険が起こりうる。お互い十分に話し合い、理解が得られた中で方向性を話し合っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	<p>食事状況、排泄状況など全身状態の変化に注意し、バイタルチェックをこまめにする。その詳細な記録は職員間が共有し、早期発見し、医療受診へとつなげている。</p>		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・処方 の 都度、内容の変更など詳細に記録し申し送りしている。 ・服用時はその都度手渡し、服用の確認が出来ている。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	個々の消化器疾患の有無が出来ていて、食材では繊維質や野菜を豊富にとるよう調理している。また少しでも体を動かし自然排便を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアの重要性と必要性について全職員が取り組んでいる。その研修も実施され、毎食後歯磨き、義歯の洗浄を個々に行い、見守りと介助にあたっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量は把握され、食欲不振・残量等を見極め、全身状態と合わせて栄養バランスに配慮している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルにより予防接種の重要性をとらえている。 ・インフルエンザは家族の同意の下に実施され、職員にも可している。 ・事業として、感染症予防の研修実施。 ・常に感染症に注意して手洗い後の消毒・ペーパータオルを使用。 		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板・ふきんは毎食後漂白。昼食後は食器の煮沸消毒を実施。冷蔵庫の残食を少なく、食材は地元の新鮮なものが多い。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々により看板は心温まるものとなっている。 ・畑は玄関先に近いところは家族による花のプレゼントがあり、いつもきれいきれい、と楽しんでいる。ホール前にはトマト・豆等を植え、実を採って利用者と職員で喜びを分け合っている。 		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・台所の音、臭い・動きが直接感じ取られ、食欲促進につなげている。 ・玄関、ホール、食卓には季節の花や山々の草花が飾られ、常に自然を感じ取れるよう工夫している。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓を離れたあと、同じ地区の方が並んで過ごす風景があったり、別ホールにて一人絵を描く利用者の姿を見かけることがある。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物品、身の回り品があり居心地良い生活を送っている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	・台所の換気は常としている。 ・居室の温度管理は常とし、極端な温度差にならぬよう注意を払っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	高齢者にとって利用しやすい建物として階段・トイレ等に工夫している。全バリアフリーとしている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	常日頃の会話や動作の中から、個々の生きてきた道や希望・思いを全職員が把握し、思いに添ったケアがされている。共に考えもする。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	広い玄関先では外気浴をしたり野菜の整理等、四季折々の楽しみ方がされる。また、畑では野菜の収穫や木の実の採取等で、利用者・職員一体となり喜びを分かち合っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	① 個別的に把握し、実行している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	① それぞれの過ごし方を把握しており、合わせた時間の取り方を全職員が行っている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	① その人の心理面やクセを把握し合わせた介護を行っている。自由な中とはいえ観察はしっかりと行う。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	① 上記により記憶が次々と言葉になり嬉しい表情も見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	② その日の天候により歩行訓練をしたり足湯、買い物、山菜摘み、風車見学、又は家の状況を見る機会とする等、その支援を行っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	① 毎日の申し送りにより全職員が各利用者の状態を知り、適切なケアと、服薬管理等、緊張感を持って支援している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	① 常に利用者の立場に立った支援を行う。時には法事に関わる買い物やお寺への用事を同行。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	① 月1～2回の面会時には、相互に状況(現在、過去問わず)を交換し、話の内容によっては解決し得るよう努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	③ 畑仕事の途中だったり、ウォーキングの最中でも気軽に立ち寄って、中には利用者と親しく話が弾む様子もある。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	② 老人クラブ等で話題となり理解が深まっている。(運営推進委員として老人クラブより1名)

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ① 試行錯誤しながらも笑顔で利用者と共に過ごしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ① 声のトーン、笑顔、仕草等でおおむね満足されているようにとらえている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ② 入所初期の利用者の家族の場合、ホームでの生活リズムについて理解困難と思われる様子が時には見られる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

長い人生の中で積み上げてきたその人らしい人格が束縛されることなく、安心と尊厳の中でその人らしいごく普通の暮らしができる支援をしています。具体的に

1. その人の心身的能力に応じた地域参加・・・町内会各行事(地域交流会・投票・児童保育園交流・お祭りなど)
2. その人の生活背景からあたりまえの暮らしの継続・・・回想法・五感刺激(自然にふれあう)・調理手伝いなど、自然とのふれ合い
3. その人の残存機能維持、向上に伴う介護予防・・・その人のどの部分に働きかけどの部分を維持するか→おしゃべり・唄う・散歩・歩行訓練・足浴・温泉・山菜採りなど